

ヤング・YOUNG・やんぐ・ヤング・YOUNG

自分の故郷佐賀県

松濤学舎

上園 英吾



2025年も終わりに近づき、今年を振り返って最も印象に残った出来事について述べたいと思います。振り返ってみると、私にとっては「情報を得ることの難しさ」を実感した一年でした。感じたきっかけは主に2点あります。1点目は参議院選挙、2点目は就職活動です。それぞれ感じた流れを説明します。

1つ目の参議院選挙、過去にない高得票率を記録した参議院選挙では、SNS活用が各政党の得票率を大きく左右したと言えるほど影響力を持ちました。ここで私が疑問に思ったこと

は、情報入手経路についてです。若者の情報入手手段がSNSに大きく偏っていることに違和感を覚えしました。実際私もSNSを通して政治の情報を受動的に入手する機会が多いです。SNSだけをみて政党の判断をすることは、あまりにも断片的な情報入手方法なのではないかと不安になります。

2つ目の就職活動です。これもまた、SNSをはじめとして、様々なアプリ・コミュニティが形成されており、情報の取捨選択が不可避なものとなっていました。知らない会社から不審な電話が立て続けにかかってくるため、一時期は朝の目覚まし代わりになるほどでした。興味を持って「面談」なるものはいくつか参加すると、素性も明かさ

筆者のプロフィール

出身地 佐賀市

出身校 久留米大学附設高等学校

大学 一橋大学商学部4年

ている」「上園さんにはこの会社がおすすめだ」と一方的にジャブを入れられ続けました。1回だけ興味本位で、松濤学舎の舎友3人で「先行直結ディスカッション会」というものに参加したのですが、選挙後の個別面談で、ハイブランドの時計とベルトが輝く、「極まっていた」「大人から「お金稼がたいでしょ、一緒にやろうよ」と言われ、恐怖を感じながら参加特典の5,000円をもらった記憶が鮮明にあります。

この2つの事象は、今年1年様々なことと関連して考えたものとなりました。情報がありすぎて、何が真実で、何が自分にとって本当に必要な情報なのかを見極めるのが非常に困難でした。

2025年、「私は情報を受け取る側」としてのリテラシーの重要性を痛感しました。情報入手する際は、批評的な姿勢

を欠かさず「違和感」を感じた際には直ぐに自分の「住処」に戻れるよう準備しておくことが大切だと感じました。その「住処」とはリアルの世界にある精神的な居場所であり、文字通り家でも、大事な本でもノートでも、情報と自分自身を冷静にかみ砕くことのできる場所を作ることだと感じています。

自分も社会人になって迷ったとき、心が疲れた時は、自分の故郷である佐賀県を、「ヒト・モノ」共に感じて、心を休めたいと思います。

リバティ法律事務所

弁護士 緒方 孝則

(神崎市)

〒160-0022 新宿区新宿 1-30-16
ルネタワー18階 1801
TEL 03-3352-8831
FAX 03-3352-8834